

日本福音ルーテル教会  
九州教区女性会

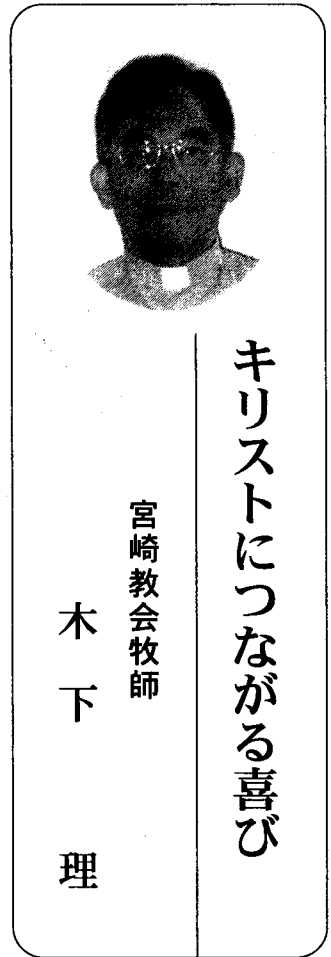
発行者代表：山口美保

編集者：西川洋子

印刷所：平山印刷出版

# みちしるべ

「ただ神の国を求めなさい。そうすればこれらのものは加えて与えられる。  
小さな群れよ。恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国を下さる。」  
ルカによる福音書 12:31～32



## キリストにつながる喜び

宮崎教会牧師

木下理

旧約聖書において、イスラエルの民は「ぶどうの木」にたとえられました。ぶどうの木は、神がエジプトから大切に携えて来て、良い土地に植えてくださったものです。しかし、ぶどうの木は、神が望まれたような良い実を結びませんでした。主イエスは、ご自分を「まことのぶどうの木」にたとえて、「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがつており、わたしの言葉があなたがつたがたの内にもあるならば、望むものは何でも願いなさい。そうすればかなえられる」と、弟子たちに言われました（ヨハネ福音書15章7節）。

枝であるわたしたち一人ひとり、は、生き生きとした枝になること  
を求めているのに、なかなか新しくなることが出来ません。変化を求めている自分の中に、そうさせようと思わないもう一人の自分がいるようです。自分の身の回りの様々な事柄を受け止め、考え、それに対処して生きているのがわたしたちです。時の経過とともに、対処の仕方も習慣となり強固になつていきます。この益々強固になる厄介なものを何とかしなければ、わたしたちはいつまでも変わることが出来ません。現実の行動につながる物事の受け止め方、考え方など一連のプロセスを断ち切るもの、それが御言葉にしたがつた祈りではないでしょうか。

「あなたがたがわたしにつながる祈りではないでしょうか。」  
がつており、わたしの言葉があなたがつたの内にもあるならば、望むものは願いなさい。そうすればかなえられる」と主イエスは言われました。祈った後には、喜びと平安が与えられます。この喜びと平安は、願いがかなえられた喜びとは異なるものかも知れませんが、しかし、この喜びと平安の先に、新しい枝とされた自分が備えられています。わたしたちは、一人ひとりが枝です。枝は幹をとおして、兄弟姉妹の枝につながつていきます。もし、一つの枝が祈ることが出来ないような苦しい状況になつたとしても、新しくされた他の多くの枝が祈るなら、その祈りはキリストというまことのぶどうの木全体にいきわたつて、祈れない枝にも必ず届きます。そして、祈れない枝も次第に元氣を取り戻して、祈ることのできる新しい枝になつていきます。これこそ、キリストにつながる喜びです。

### 第43回九州教区壮年連盟修養会・総会

## 信仰への旅立ち

宮崎教会 三好 達郎

宮崎教会は、壮年の会員の数は少なく、壮年会も形成されておらず、各種の問題を抱えています。

その中で、九州地区壮年会の会長への就任を打診された時には、いささか戸惑いました。しかし、日笠山牧師とも相談して、これをチャンスと捉え、宮崎教会の壮年達の活動を活性化する契機としようとの結論に達し、引き受ける事としました。

元より、力不足で、色々な面で綻びを抱え乍ら、歩み、婦人会、求道中の者等の全面的な協力の下で、総力戦で臨みました。しかし、それでも当日には色々不手際を示してしまいました。我々には、これが精一杯かとも思えます。それにも関わらず、皆さんから感謝のお便りを沢山頂き、一同喜んでいきます。これからの励みにしたいと思います。



今年は女性の参加もありました

今回の出来映えを押さえ、「この様な弱小な集団でも、なんとかやって行ける。」と、皆さんも励んで頂ければ幸いです。

また、日向の郷でのキリスト教の香りを調べる機会を与えられた事は、感謝に堪えません。

(九州教区壮年連盟会長)

### 会長報告

女性会連盟合同役員会

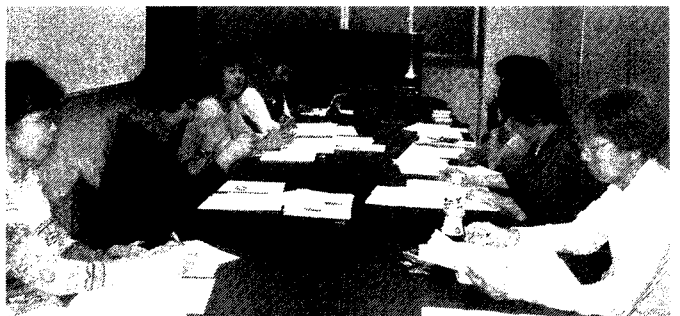
## つながる喜び

山口 美保

10月13日、女性会連盟合同役員会が開催されました。

開会礼拝で、立野牧師より「となりびと」の活動報告がありました。女性会連盟でも、「となりびと」の活動を受けて被災者の方々の支援プロジェクトを立ち上げ、各教区がこれに応えて取り組んでいます。被災者の方々に喜んでいただけることは、私たちに「つながる喜び」を体感させてくれます。

合同役員会では、年々会員が減少している現実を踏まえた上で、連盟の在り方や総大会の方針等について話し合いました。総大会に向けて、各教区の共通した意見は、早目に総会資料の配布が望ましいということでした。



連盟役員と各教区会長があつまっての合同役員会 東京教会内、会議室にて

スリム化しつつ、なおかつ「つながる喜び」を一人ひとりが実感できる連盟、また、宣教の業に用いられる共同体を目指して歩めば、進む方向が見えて来るとの思いを抱いた合同役員会でした。

(教区女性会会長)



# 地区集会だより

## 熊本地区女性会 秋の集い

### 被災地に立つ「となりびと」

神水教会 原野 松代

講師 立野泰博牧師

開催 10月1日 神水教会

立野牧師は、この3月に起きた東日本の未曾有の大地震の後、ルーテル教会事務局長として、ボランティアの方々和被災地を飛び回って、行政の手の届かないところを、きめ細かく被災者の要望に応えてこられました。そして、タオル1枚、ティッシュ一つをはるばる届けて回り、また、



講師の立野泰博牧師



82名が集った「秋の集い」

辛い胸の内を聞いて心からの信頼を得て、「ルーテルさん」と呼ばれ、慕われて頑張った。こられた話を聞きました。

キリストの教え、真の「となりびと」、「寄り添い人」となっているように思います。また、余震が来る度に「もう許して下さい」「堪忍して下さい」と手を合わせる被災者の方の気持ちを思うと心が痛みました。

今回の席上献金の中から、57700円を、被災地の支援活動に捧げました。

### 第1期九州教区女性会役員

#### 感謝の言葉

山口美保 (会長)

数えてみよ主の恵み

私は3年前、役員それぞれの賜物がどんな形で現われるかお楽しみに！と書きました。会長としては、足りない事の多い日々でしたが、皆さんの祈りと励ましによりここまで来ることができ、感謝です。もうすぐクリスマス。主の恵みを数えつつ総会を迎えたいと思います。

西川洋子 (副会長)

今期の副会長、文書役員(任期途中から)をお受けして、「井の中の蛙」の私も、少し成長させて頂けたかな?と思っております。沢山の方との出会いも嬉しく、又、自分の立場を冷静に考える事で、神様の訓練の場として用いて頂いた事に感謝しております。

益田千恵子 (書記)

月並みな言い方ですが、あつという間の三年間でした。書記という役はいろいろお願いすることが多く、各教会の会長さんには特別にお世話になりました。ご協力に感謝します。

終わるにあたり感想としては、連盟会長が近くに居た故もあつて連盟の動きを身近に感じることができたこと。何となく遠い存在だったのが、大変さも含めて少し分かったことでした。これが今期の私たちの役得でしょうか。

村上邦子 (会計)

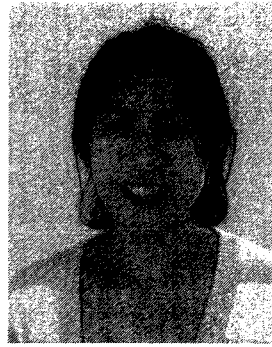
各教会女性会の会計の方々が、毎年会費等をきちんと送金されますので、お世話大変でしょう、といつも感謝しながら任に当たって来ました。有難うございました。私自身は不勉強で、充分でなかったことを申し訳なく思っています。皆様に主の祝福が豊かにありますよう、お祈りいたします。

谷口美樹 (連盟担当)

教区役員を仰せつかったの働きも3年目のまとめの時となりました。皆様に感謝致します。連盟担当は教区と連盟をつなぐパイプ役です。連盟の働きを少しでも早く教区に伝えることができるように心がけてきました。役員として用いられていく中で「み言葉に立つ」今期の主題をより深く感じています。また、連盟会長としても、お支え頂いていますことを重ねて感謝致します。

シリーズ  
み言葉との出会い

神様と共に育てる恵み



博多教会 宮本 佐織

「しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。」  
コリントの信徒への手紙一

15・10

この聖書箇所には赤線を引いたのは、もう何年も前なのですが、今最も私が励みにしている御言葉の一つです。私には、小学2年生の娘と、1歳半の息子がいます。子育ては毎日が迷いの連続です。これ

でいいんだ！」という、確たる答えなど無い中で、不安を感じたり、いらだつたりしながら、過ごしています。そんな時、「働いたのは、自分ではなく、神の恵みなのだ」と知らされることは、なんだか勇氣を与えられている気がするのです。

毎日を共に過ごしているのは、親である私たちですが、私たちをとおして、神様が子どもたちに恵みを注いでくださっているのだと思うと、少しだけ自信が持てる気がするのです。なんだか、神様が背中を押してくださっている、そんな安心感を覚えるのです。神様、イエス様が私たちを通して伝えてくださる恵みを糧に、私たちを通して働かれる、神様の恵みを信じて子供たちの成長を見守りたいと思っています。

シリーズ  
み言葉との出会い

神様からの祝福



神水教会 大住 紗織

今年の4月に、夫の転勤先が夫の実家の近くになり同居生活を始めました。

長男は今、2歳8カ月です。

歌が好きで保育園でお覚えた歌を沢山歌ってくれます。野々島（熊本県合志市）は、自然に囲まれており、耕平は喜んで義父母と愛犬くうちゃん散歩に出かけています。耕平は、義父母と叔母さん、次男の将史と家族が増え毎日楽しく賑やかに暮らしています。

私達夫婦は、神水教会のクリスマス祝会で、偶然両親と大住の両親が出会い同じテールの子供がいることが分かりお見合いをしました。二人初めて会うのにお互い古い友達に再会したような感覚で意気投合し、2か月後のイースターの日に、神水教会で婚約式を挙げ、5カ月後には同じ教会で結婚式を挙げました。私達が一番良い時に神様が出逢えるように導いて下さったのだと思います。

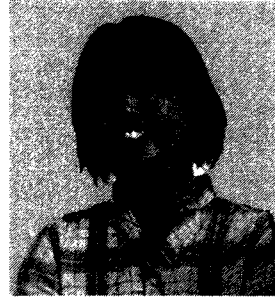
「愛は、すべてを完成させるきずなです。」

コロサイ3・14

この一節が私は好きです。この一節のようになれたらと思います。

シリーズ  
み言葉との出会い

母から、そして子へ



健軍教会 高濱 留都

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

使徒言行録3・6

この御言葉は、私の堅信の時に母が祝電で贈ってくれたものです。

小児洗礼を受け、親に連れられ教会に何となく通っていました。高校を卒業して、親

シリーズ  
み言葉との出会い

ひかりの子として歩む



大江教会 新美 美穂

「光の子として歩みなさい。」

エフェソ5・8

導かれて子どもと共に歩む生活を送ってきました。めぐみ幼稚園での歩みも、ひかり幼稚園での歩みも、決して同じ一年ではなかったけれども、節目の時に必ず「光の子として歩みなさい」のみことばが与えられました。

始めは、子どもを卒園させる時のなむけの聖句と思っ

ていました。しかし、毎年このみことばを聞いていううちに、「私もひかりの子」という思いに変わってきました。

「あなた方は生まれながらにひかりの子です。」

「神様から一人ひとりにすばらしい賜物が与えられているのです。」…

出会った牧師や園長先生からの教えは、何と心強くうれしかったことでしょう。私も愛されている！このことの確信は、希望となり、子どもと歩む時の原動力となります。

これからは、そのことを証しするひかりの子でありたいと思います。



# 教会バザー

「わ」になろう

博多教会

今年の合言葉は、みんなの祈りと力・活動が一つの「和」になり、更に地域や家族・知人・友人などを含めた大きな「輪」となって広がるようにとの願いを込めて、二つの漢字の読みから「わ」になろう、と決まりました。

教会員みんなが、心を一つにして開くバザーでは、互いに親しみを増して行くのを感じます。

収益金は東日本の被災地などを覚えて、主の御用のために捧げられます。  
(松隈則子)



博多教会 今年のバザー風景



熊本教会 教会員やそのご家族、お友達による手作り食品、手芸品が大好評



大江教会 手作り品がたくさん並んだ会堂

愛と恵みの出会いとふれあい

久留米教会

私達の教会のバザーは、幼稚園と合同で毎年11月3日に行い、もう40年以上になります。目標は「楽しみながら、地域の方々ともふれあいの場を持ち、イエス様の愛と恵みを分かち合う事」です。

教会員と幼稚園のお母様方が集まり、話し合い協力しあいながら様々なものが作りだされ、楽しいバザーになる。一人ひとりが責任を持ち、同じ方向に向けて歩いて行く、その中心にはイエス様がいらっしゃる、これが私達のバザーです。  
(室園勝枝)



室園教会 仕事会の作品コーナー クリスマスグッズやカード、手芸品の数々。子どもづれのお母さんたちが喜んでくださいました。

# 地域と共に



**健軍教会** 今年のバザーには、キャベツ 400 玉の献品があり、青年たちががんばってたくさん売ってくれました。



**神水教会** 雨でしたが、多くの方の来場がありました。婦人会手作りクリスマスグッズ、食バザー等、力を注ぎました。



**唐津教会** 喫茶コーナー

## バザーを楽しむ 唐津教会

「ルーテルデー」と呼ばれる私どものバザーは、幼稚園と共催で毎年行われています。

今年のテーマは「みんな笑顔・祈りをこめて出来ることから始めよう」です。

準備期間中は、礼拝後、手作りの作業をしながら皆で親睦の輪を広げています。

当日は手作り品、寄贈品をはじめカレー、ケーキセット等の喫茶コーナー。

委託品コーナーではルーテル昆布、レインボーハウスからのケーキ等の販売の参加もあります。CSの父母の協力もあり、感謝です。  
(田中正子)

## キリストのかおり

## 箱崎教会

箱崎教会と恵泉幼稚園共催の毎年恒例のバザーは、11月3日に行われます。

今年のテーマは、「キリストのかおり」です。バザーへのお誘いのチラシには、次のようにあります。「イエス様の時代、祝いの事の礼拝を司る祭司はかぐわしい香りを放つ香炉を炊きました。その漂う香りを嗅いだ人々は皆、共に喜びの声をあげたと聖書に記されています。箱崎の地にあつて、80年。与えられた幼稚園や、教会から神様のみ言葉や人を介し、雰囲気を通じて『キリストのかおり』のごとく伝えられたと信じています。今私たちもこの想いを分かち合い、引き継ぎながら、祝福に満たされた日々を迎えたいのです。」 80周年の記念の年のバザーが、人々の喜びの催しとなりますように。  
(福留美弥子)



**箱崎教会** 幼稚園と共催で